

あいさつ

「世界一安全な道路交通」を実現していくために

財全日本交通安全協会

理事長 奥村 萬壽雄



本日は、私も財全日本交通安全協会の創立五十周年記念シンポジウムを開催いたしましたところ、皆様方には新年早々で何かとお忙しい中、ご来場を頂き、誠にありがとうございました。主催者を代表いたしまして

心から厚く御礼申し上げます。

さて、全日本交通安全協会は、昭和三十六年一月十日に財団法人として発足いたしました。当時、我が国は、既に経済の高度成長期に入り、交通事故が激増していた時期で、特に当協会発足二年前の昭和三十四年には、交通事故死者が初めて二万人を突破して「交通戦争」と呼ばれるなど、交通事故が大きな社会問題となっていた時期でありました。当協会は、こうした状況の下、「交通事故を防止するため何より大事なのは、結局のところ、国民一人一人の交通安全意識を高めることである」との考えに立ち、これを全国的に推進す

る団体として設立されました。そして爾来長年にわたり、民間における交通安全団体の中核として、警察庁など関係機関・団体と緊密に連携しながら、交通安全思想の普及啓発活動をはじめ、交通安全教育指導者の育成、交通安全表彰の実施等、幅広い様々な交通安全対策事業を継続的に推進してまいりました。

本日のこのシンポジウムは、当協会がこのたび創立五十周年を迎えるに当たり、これまで官民協力して悲惨な交通事故の防止に取り組んでまいりました五十年間を振り返りますとともに、一時最悪の時には一万六千人を上回っていた交通事故死者数

が、昨今は五千人を切るまでに減少したという大きな成果を踏まえながら、更なる次の課題として、「世界一安全な道路交通」を実現していくため、今後、交通安全活動をどのように進めていくべきかを、皆様方と一緒に考えてまいりたいという趣旨で開催したものであります。

本日のテーマは、「人と車を見つめて五十年」そして「これからの展望」としてありますが、交通安全教育の第一人者であられる千葉大学名誉教授の鈴木春男先生にまず基調講演を行って頂き、そのあと、鈴木先生にコーディネーターになって頂いて、五人のパネリストの方々にパネルディスカッションをして頂くことにしております。

お忙しい中ご出席を快諾頂きました鈴木先生並びにパネリストの皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、このシンポジウムが日頃様々なお立場で交通安全活動にご尽力いただいております皆様方にとりまして、これからの活動のご参考になりますことを祈念いたしまして、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

